

焦点を「神」に合わせると、

(創世記二〇・一〜一八)

聖書の魅力とは何だろう。色々な答えがあるが「人生のよい指南書になるから」「読むと知恵深くなれるから」「信仰が深まるから」といった実用的な理由を挙げる方が多いと思う。確かにこの種の解答は信仰者としての模範回答である。しかしこういった理由は聖書の魅力の一面に過ぎないとも言える。実際にある人々は信仰とは全く関わり無く聖書を読み続け、その魅力に惹かれ続けている。なぜか。一つの理由は聖書の持つ複雑さにある。聖書は全くもって「一筋縄ではいかない」書物なのである。

今朝の箇所はその最たるものだとも言える。疑問を挙げればきりが無い。「なぜアブラハムはまた同じ嘘をついてしまったのか」「なぜサラは九〇歳になっても美貌を保っていたられたのか」そして「なぜこんなアブラハムを主は選んだのか」といった具合である。しかし少し視点を神に向けてみるならば、この個所に隠れている素晴らしい宝を掘り起こすことが出来る。以下神の性質について考えたい。

一、人をかたより見ない「神」

へブロンを離れ、ペリシテにほど近いゲラルに移り住んだアブラハムは嘗てエジプトの王ファラオにしたのと同じように、妻を妹と言って彼女を当地の王、アビメレクに差し出した。嘗てエジプトで失敗をしたのはもう二〇年以上も前の事。それから曲折をへてアブラハムの信仰は成長したと言いたいのであるが、このことにおいて言えばアブラハムは依然として臆病者であつた。それだけではない。二〇・一一にはアブラハムが妻を妹と呼んだ理由が書かれているのだが、これが実に興味深い。「この地方には、神を恐れることがまったくないので」とあるのだが、これは実際を反映しているだろうか。否である。確かにアビメレクは「異邦人」であつた。しかし夢の中で神が彼に現れた時、彼は神に応え(四節)、自らの正当性を弁護し(五節)、神が言われた通り、アブラハムを祝福し、またアブラハムの祈りを受け入れたのだ。そう考えるとゲラルの王、アビメレクが神を恐れていないと断言することは到底言えない。アブラハムの考えは偏狭で先入観に支配されていたが、アブラハムの神である主は血統、血筋によらず、只管にアビメレクの心を見ておられたのである。まことに神は人をかたより見る方ではない(参考：使徒一〇・三四)のである。

二、約束を成就する「神」

しかしこの箇所におけるアブラハムは全くもって「残念」な存在である。というのも彼は先のエジプトにおける「事件」から必要な反省を一切学ぶことをしていないからである。それどころか詭弁を使つてきたことを正当化し、しかも悪びれるところもない。まったく困つたものである。

しかし神はそのアブラハムの情けなき、だらしなきによつてご自身の約束を違えることはなさらなかった。寧ろ「あなたを祝福するものをわたしは祝福し、あなたをのろう者を私はのろう。地上のすべての民族はあなたによつて祝福される(創一・二・二、三)」という約束をだらしないアブラハムを通して実現されたのである。

主はアビメレクに対しアブラハムが預言者であり、彼のいのちを握っているキーパーソンであることを告げた。アビメレクはこの主の命令に従い、アブラハムに自らの羊、牛、奴隷、そして銀千枚を与えて彼を祝福した。その結果アビメレクとその一家は、アブラハムの祈りによつて健康を回復し、子孫繁栄の祝福にあずかったのである。神の約束はアブラハムの情けなき、罪深さに左右される事もなければ、異邦人であると言う出自に影響されることはない。神の恵みの約束はただひたすらに神ご自身によつて成就されるのである。

* * *

一九四〇年、ナチス占領下のアムステルダム郊外の町に一件の時計店があつた。店主はキヤスパー・テン・ブーム。熱心なクリスチャン一家である。彼は迫害されるユダヤ人たちのために自室を改装し、多くのユダヤ人をかくまった。しかしその四年後、密告によつて彼らは捕えられた。家族は離散し、テン・ブーム一家はひとりを除いて皆死んだ。ただユダヤ人達と共にレーベンスブリュック強制収容所に入れられた二女のコーリーだけが生きのびた。

この極限の体験を生き抜いた彼女は戦後執筆と講演に献身し、戦争の悲惨さと人間性を見失わない事の大切さを伝え続けたのだが、その際彼女が良く用いていた例話に刺繍の例えがある。講演の最中、彼女は刺繍をわざと裏返しにして聴衆に見せ、「私たちの人生はこういうもの。脈絡なく不連続で余計なものだらけ。でもひっくり返してみると、そこには美しい刺繍があるのよ。そしてこの表側こそ、神様が見ている私たちの人生なの」と言つてほほ笑んだと言う。友よ、生きるということとは不連続で悩ましく、一筋縄ではいかないものだ。でも大丈夫。なぜなら約束に誠実でかたより見ることのない神は、その背後で私たちの人生模様を今日も美しく仕上げようとして下さっているのだから。